

令和 5 年度教育活動方針

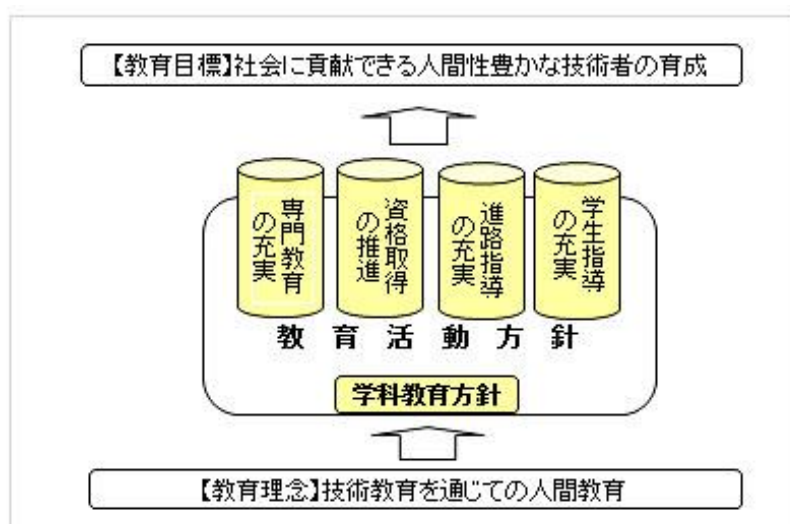
令和 5 年 4 月 1 日
岡山科学技術専門学校
校長 大月 秀之

I 教育理念

「技術教育を通じての人間教育」

II 教育体系

岡山科学技術専門学校では、専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動方針の柱とし、社会に貢献できる人間性豊かな技術者の育成を目指している。併せて教育活動を継続的に改善するため、PDCA サイクルを活用している。基本的な流れとしては校長の定める教育活動方針及び学科で作成する学科ガイドブック(Plan)を基に、教育活動を実施(Do)、年度末に自己点検(Check)を行い、次年度の教育活動方針に反映(Action)させるという構成となる。PDCA サイクルの要となる自己点検は、教職員に対するアンケート方式で毎年末に行っており、令和 4 年度の結果は 3 ページの「VI(参考資料)令和 4 年度教育活動方針に従った評価項目の達成及び取り組み状況」にまとめた。



III 令和 4 年度教育活動方針の概要と結果

(1) 令和 4 年度の教育活動方針の概要

長期に亘るコロナ禍により、これまで積み上げてきた成果が大きく後退した部分があると感じている。今年度もコロナ禍が一挙に終息することは期待できないが、ウイズコロナで新しい生活様式も定着しつつある。今、科技専に求められるのは取り戻すべきこと、見直すべきこと、新規に始めるべきことを見極め、確実に前進することである。特に、取り戻すべきことに関しては、感染状況を見ながらになるが、培ってきた境地まで一気にジャンプすることを目指し、キーワードは「跳躍」とし、併せて以下の重点項目を定めた。

重点項目

1. 6S 管理の徹底
教室、実習室の清掃強化に努める
2. 専門教育の充実
企業との連携およびインターンシップを積極的に進める
3. 学生指導の充実
学生とのコミュニケーションを促進し、信頼関係を構築することと、問題点を早めに見つ

- けることを目指す
4. 進路指導の充実
 - 一人ひとりの適性に合わせた進路の実現
 - 企業訪問を積極的に行う
 5. 留学生の指導・支援の充実
 - 日本語能力の向上とともに、教育方法の改善を図る
 6. 学生確保
 - 広報企画課との情報交換の推進
 7. 教職員の資質・能力の向上
 - 研修の充実

(2) 結果

令和4年度になると新型コロナウイルス感染症が収束に向かっていることは実感できたが、変異株の流行により学級閉鎖が続出した。このことが学校運営、教育活動に与えた影響は大きく、結果として評価が数年間連続して低下した項目が多かった。その中でも特に気になったのが清掃などの教育環境に関する項目、留学生を含む教育・学生指導に関する項目、学生募集に関する項目である。いずれも岡山科学技術専門学校として重要視していたが、例えば清掃に関する項目については、放課後すぐに教室を消毒する必要があるためおざなりになった感があり、評価の低下につながったことは残念であった。

IV 令和5年度のキーワード<レベルアップ>

長く学校教育に影響を与えたコロナ禍も、令和5年度に感染症法上の分類が変更されることに伴い、ようやく収束を見込める状況となった。もちろん感染力等により変わりがあってもいいわけではないので注意を続ける必要はあるが、教育活動の向上につなげたい。新年度の教育活動方針を策定するにあたり、例年であれば7分野40項目の評価項目ごとに改善点を定め、その中から重点項目を選んでいくが、今年度に限りコロナ禍で評価が低下している3分野を集中的、重点的に改善したい。

一つ目が「6S管理の徹底」である。令和5年度においては全教職員で教育環境の整備に徹底して臨みたい。併せて、躰教育の一環として挨拶などの社会人マナーの徹底も図りたい。

二つ目が「留学生の指導・支援の充実」である。すべてがコロナ禍に起因するわけではないが、日本語でのコミュニケーションに問題がある留学生が増えている。日本語学科を設けている学校の特徴を生かし、学内連携による日本語教育の充実を行いたい。

三つ目が「学生確保」である。留学生受験者の大幅減少はコロナ禍に起因する部分が多いが、日本人受験者も減少している。人事、設備を含め、より魅力的な学校とすることを最終目標に、短期的にはオープンキャンパスの内容を充実し、学生確保に努めたい。

以上3点を最重点課題とし、コロナ以前のレベルを超えることを目標に改善を目指す。したがってキーワードは、「レベルアップ」としたい。

V 令和5年度教育活動方針の重点課題

1 6S管理の徹底

教室・実習室の清掃強化に努める。
挨拶等の社会人マナー（喫煙を含む）などの躰教育に努める。

2 留学生の指導・支援の充実

日本語能力の向上とともに、教育方法の改善を図る。

3 学生確保

オープンキャンパスの充実を図る。

VI (参考資料) 令和4年度教育活動方針に従った評価項目の達成及び取り組み状況

表の数字の、左欄は自己評価の平均値、右欄は肯定的人数（「4：適切」または「3：ほぼ適切」と答えた人数）の割合（%）を示す。また、（ ）内の数字は昨年度の値を示す。なお、数字左の記号で、○は平均値が0.2以上アップかつ割合が10ポイント以上アップ。△は平均値のみ0.2以上アップ。●は平均値が0.2以上ダウンかつ割合が10ポイント以上ダウン。▲は平均値のみ0.2以上ダウン。割合右の矢印で、↑は2年以上連続アップ、↓は2年以上連続ダウンを示す。

1. 6S管理の徹底

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	職員室（事務室も含む）の整理、整頓はなされている	▲2.9 (3.2)	82.7% (86.0)
2	HR教室の整理、整頓、清掃はなされている	2.8 (2.9)	71.2% (70.0)
3	実習工場（高柳）、実習室（昭和町）の整理、整頓、清掃はなされている	2.9 (3.0)	78.8% (79.2)
4	授業（実習・座学）は学生が意欲を持って取り組む、わかりやすいものを目指して日々工夫をしている	2.9 (3.0)	82.4% (85.1)
5	授業、校外研修等において、常に細心の注意を払い、事故のない指導を心掛けている	3.2 (3.3)	94.1% (93.9) ↑
6	授業始業時、終了時のあいさつや授業態度の指導など、マナー、躰指導に継続的に取り組んでいる	▲2.9 (3.1)	78.8% (79.2)
7	安全を意識した指導を徹底している	▲3.2 (3.4)	94.2% (96.0)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・授業態度や躰指導は改善されつつあるが、目標とする領域には達していない。
- ・職員室を含め、校内の整美が必要（ほか3件）

2. 専門教育の充実

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	教える内容を精査し、基礎・基本の定着を図っている	3.0 (3.1)	86.3% (91.8)
2	個々の能力を伸ばすため、学生が主体的に学ぶ授業の工夫に努めている	2.9 (2.9)	78.4% (79.6) ↓
3	認定学科として、職業教育の充実に向けた取組が、計画通り進んでいる	2.8 (2.9)	76.0% (80.9) ↓
4	身に付けさせる能力について、学科教員との話し合いに努めている	▲2.7 (2.9)	66.7% (75.0)
5	企業と連携した実習は効果的に行っている	3.0 (3.0)	86.0% (75.0)
6	企業と連携したインターンシップは効果的に実施できて	2.9 (2.8)	78.4% (70.2)

	いる		
7	目指す資格を明確に示している	3.4 (3.4)	96.1% (94.0)
8	学科を挙げた組織的で徹底した指導を行っている	▲3.0 (3.2)	74.5% (84.0)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・全体的に取り組んでいるが、評価する仕組みが必要だ。

3. 学生指導の充実（学科教員間の意思の疎通、家族や関係機関との連携）

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	あいさつの徹底（思いやりの心を育む）に努めている	▲3.1 (3.3)	84.3% (90.2)
2	授業の工夫・改善に努め、学ぶ意欲の高揚を図っている	2.9 (2.9)	80.0% (80.0)
3	真面目に授業を受ける指導を行っている	▲2.8 (3.0)	78.4% (84.0)
4	個人面談や声掛けを大切にし、学生把握に努めている	3.0 (3.1)	80.8% (84.3) ↓
5	電話連絡や家庭訪問等で家族との連携を密にし、きめ細かい指導を行っている（進級率・卒業率 95%）	2.7 (2.8)	64.7% (73.5) ↓
6	禁煙指導や感染症の予防等の健康管理、気になる学生の支援に努めている	●2.8 (3.1)	69.2% (80.4) ↓

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・挨拶の徹底が必要（ほか2件）
- ・喫煙者に対し、禁煙セミナーを行うべき。（ほか1件）

4. 進路指導の充実（進路指導課と学科との連携）

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	就職指導の充実に向け、進路指導課と学科の連携ができている（内定率 100%）	3.1 (3.0)	86.0% (81.3)
2	企業訪問を積極的に行っている	2.6 (2.5)	49.0% (48.9)
3	一般教養の充実に努めている	2.8 (2.7)	78.4% (62.3)
4	ビジネス教養の充実に努めている	2.8 (2.8)	76.5% (72.9)
5	進路指導課と学科の連携を強化し、就職支援と卒業後の離職等も含めた動向確認に努めている	2.9 (2.9)	80.4% (74.5)
6	就職先企業や企業後援会、同窓会との連携を図り、卒業生の職場定着に努めている	2.8 (2.7)	68.6% (61.7)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

・進路指導課と学科がもっとコミュニケーションを取ることが必要。進路指導課の一層のサポートも欠かせない。

5. 留学生の指導・支援の充実（在学生の把握の徹底と卒業生の把握）

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	日本語能力向上に向けた組織的、計画的な指導に努めている	▲2.4 (2.7)	51.9% (63.8)
2	進学指導の充実のため、ガイダンスや専門学科の授業見学が、組織的に行われている	▲2.5 (2.7)	55.8% (65.2)
3	専門科目をわかりやすくするための指導方法の工夫がなされている	2.6 (2.6)	64.7% (67.4)
4	就職に向けたガイダンスやインターンシップの実施が、組織的に行われている	2.8 (2.9)	70.0% (74.5)
5	生活実態（出欠、アルバイト、宿舎等）の把握に努めている	2.9 (3.0)	82.4% (87.5)
6	文化や言語の理解を深めるための研修が行われている	2.1 (2.2)	28.0% (37.5)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

・日本語学科の教員との連携があれば、工業専門課程の日本語教育に成果が出るのでは(ほか2件)
・留学生の日本語教育や進路指導に対する支援がもっと必要である。

6. 学生確保

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	多角的な情報分析、計画的な高校訪問など、学生確保に努めている	●2.3 (2.7)	46.2% (63.0)
2	広報企画課と学科との情報交換を密にし、学科情報の効果的な発信に努めている	●2.3 (2.5)	38.5% (55.3)
3	オープンキャンパスの充実を図り、歩留まり率向上(65%以上)を目指している	●2.6 (3.1)	63.5% (85.1)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

・オープンキャンパスのメニューを拡充し、変化に富む内容にする必要がある。
・オープンキャンパス後の出願に向けたフォローが不十分であると感じる。また他校への流失がとても気になる。

7. 教職員の資質・能力の向上

評 価 項 目		4 : よい	3 : ほぼよい
		2 : やや不十分	1 : 不十分
1	3回の面談（当初、中間、最終）等で意見交換ができている	3.0 (3.1)	84.9% (86.3)
2	校内教員研修や企業研修会等に積極的、計画的に参加している	●2.8 (3.0)	66.7% (78.0)
3	公開授業、授業見学が計画的に行われ、授業改善に努めている	2.8 (2.6)	71.2% (64.6)
4	資質、指導力向上のため資格取得に挑戦している	2.7 (2.6)	71.2% (58.0) ↑

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・面談による意見交換はできているが、継続的な論議には至っていない。
- ・授業等のため、参加できない研修会があった。
- ・ベテラン教員による公開授業を行ってはどうか。